

2022年5月13日

各位

会社名 データセクション株式会社  
 代表者名 代表取締役社長 CEO 林 健人  
 (コード番号: 3905 東証グロース)  
 問い合わせ先 取締役 CFO 望月 俊男  
 TEL. 03-6427-2565  
 050-3649-4858

**営業外収益、営業外費用、特別損失の計上及び  
 通期業績予想と実績との差異に関するお知らせ**

当社は、2022年3月期において、下記のとおり営業外収益（為替差益）、営業外費用（支払利息）、特別損失（投資有価証券評価損）を計上いたしましたのでお知らせいたします。

また、2021年5月14日にて公表いたしました2022年3月期の通期業績予想と、本日公表の実績値との差異について、併せてお知らせいたします。

記

1. 営業外収益、営業外費用及び特別損失の計上について

外貨建債権債務に係る為替差益44百万円を営業外収益に、銀行からの借りに伴う支払利息15百万円を営業外費用に、保有する投資有価証券の一部が取得価額に比べて時価が著しく下落したため減損処理による投資有価証券評価損69百万円を特別損失として計上いたしました。

2. 2021年3月期 通期業績予想と実績との差異について

(1) 連結業績予想数値と実績値との差異（2020年4月1日～2021年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純 利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	1,500 ～1,900	△50 ～100	△60 ～90	△116 ～6	△8.29 ～0.43
今回実績 (B)	1,692	77	165	2	0.17

増減額 (B - A)	192 ~△208	127 ~△23	225 ~75	118 ~△4	—
増減率 ( % )	12.8% ~△10.9%	— ~△23.0%	— ~83.3%	— ~△66.7%	—
(参考) 前期連結実績 (2021年3月期)	1,389	18	31	△41	△3.02

(2) 差異が生じた理由

売上高につきましては、2021年5月14日の公表では、既存サービスが堅調に推移した際の下限値を1,500百万円とし、海外の成長、M&A、新規案件の獲得を見込んだ上限値を1,900百万円として見込んでおりました。海外子会社を中心にグループ各社の売上増加施策が奏功したこと、新たにINTELIGENXIA S.A.を連結子会社にしたこと等から過去最高売上高となりましたが、結果として収益の伸びは業績予想の上限には届きませんでした。これらにより、売上高は業績予想レンジの上限を下回る一方で下限は上回る結果となりました。

売上高が上記のとおりとなったことに伴い、営業利益につきましても、業績予想レンジの上限は下回るものの下限は上回る結果となりました。

経常利益につきましては、2021年8月13日付「2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)」に記載のとおり匿名組合投資利益を営業外収益に計上したことや「1. 営業外収益、営業外費用及び特別損失の計上について」に記載した為替差益を営業外収益に計上したこと等により、業績予想レンジの上限を上回る結果となりました。

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、「1. 営業外収益、営業外費用及び特別損失の計上について」に記載した特別損失の計上や法人税等の計上等により、業績予想レンジの上限を下回る一方で下限は上回る結果となりました。

以上